

されています。

「旅の途中にここに立ち寄って
くれて感激しました。来年もまた
やって来るのを楽しみにしていま
す」と粟津さん。近年はバタフラ
イガーデンなど注目されており、
粟津さんのような活動が広がれば
町の至るところが、”旅する蝶の停
車場“になるかもしれませんね。



皆乗寺の駐車場に植えたフジバカ
マの蜜を求めて飛来した、アサギ
マダラ (写真は粟津さん提供)



アサギマダラの飛来を
喜ぶ粟津さん

書と歩いた人生

皆乗寺の山門近くで安尾澄子
さんに出会いました。書家として
広く知られる安尾さんはこれまで
数々の賞を受賞。32年前に立ち上
げた「益城清風会」では、県内はも

安尾さんと亡き夫の幸敏さんの結婚写真を見
せてもらいました



書家として広く知られる安
尾さん。軽快なおしゃべり
で楽しい時間が過ぎました

とより全国大会で優秀な成績を取
めた多くの弟子を輩出しています。

安尾さんの近年の作品に、墨と
金墨で描いた「静寂」という書が
あります。躍動する文字は生き物
が動き出すようで、思わず息をと
めます。幼い頃から書道に親しん
できたという安尾さんは、「市内
の小学校で開催された大会では、
いつも一等賞でした」と思い出を
ひもときます。

13年前に74歳で亡くなった夫の
幸敏さんとは文集を通じて知り合
い、文通での交際を温めました。
ところが少しずつ思いを寄せ合う
2人をよそに、安尾さんの手紙の
文字を気に入ったのが幸敏さんの



墨と金墨で書かれた「静寂」という見事な作品

父親。「こがん美しか文字ば書け
る娘さんはただもんじゃなか」と
安尾さんの顔も見ずして、息子の
縁談を決めたそうです。

結婚50周年の記念にと娘さんの
提案で、安尾さん夫婦は再び手紙
を交換しました。

「文集が縁であなたとのすてき
な出会いがあり、今があると感謝
しています」

そう書かれた幸敏さんの手紙の
冒頭に胸を打たれます。
安尾さんもまた、最後の一行を
こう結んでいます。

「この手紙は、私があなたに贈
る感謝状です」

出会いから50年の月日を経てあ
らためて交わした2人の恋文は、
安尾さんの大切な宝物です。

散歩の終わりに

散歩の途中で道を尋ねる
と、親切に教えてくれたご夫
婦に出会いました。「気をつ
けて行きなはなまつせ」とか
けてもらった言葉が胸に温か
くて。福田校区にはコンビニ
やスーパーはありませんが、
人の温かさがあふれています。
「旅する蝶」のアサギマダラ
が立ち寄った理由が分かる気
がします。



安尾さん夫婦が結婚50年
目に交わし合った手紙

